



特定非営利活動法人

## 神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 350

September 2020

### NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE  
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

## ドイツ語講座・ドイツ文化教室2020年度第Ⅲ期開講

会長 栞田 義一

10月5日(月)よりドイツ語講座・ドイツ文化教室の2020年度第Ⅲ期が開講します。

本年度は新型コロナウイルス感染防止のために、4月からの第Ⅰ期はオンライン授業の導入、7月からの第Ⅱ期はクラスの事情により従来の対面授業あるいはオンライン授業の継続などにより2期を継続してきました。このような困難な状況にも拘らず、多くの方々に前年度から継続受講をしていただき、また新年度からの7名の新しい方々も加わっていただき、上半期の2期を継続することが出来ました。ありがとうございました。

10月からの第Ⅲ期は、本来の対面授業にて行います。これまでと同様にマスク或いはフェイスシールド等の着用をはじめ授業でのウイルス感染防止に努めていきます。神戸市内での感染状況が悪化した場合にはオンライン授業に移行をしますので、予めご了承をお願いいたします。

第Ⅲ期の開講授業の詳細については、同封のパンフレットをご覧ください。

ドイツ語講座の多くのクラスは前期からの継続クラスですが、途中からの受講は可能ですので、奮ってご参加ください。

神戸市内の感染者数は最近は一桁台にとどまっています。しかしこれからの冬季での感染拡大が憂慮されています。どうやら感染の完全終息は当分は望めそうにありません。協会では„Mit Corona“を前提としたドイツ語講座の展開を現在模索しています。当分の間はかつてのようなドイツ及びドイツ語圏の国々との往来もままならないでしょう。従って疎遠となりがちなドイツ人との交流をどのように補完するか、この機をドイツ語のブラッシュアップや学び直しの好機ととらえて、そのような希望にどう応えるか等々検討を行っています。この機に会員皆様のご希望・ご意見を伺い、参考とさせていただきたいので、是非ともご協力をお願いいたします。これを機会に60余年の伝統ある「神戸日独協会ドイツ語講座」を時代に即した形で更に発展させていきますので、よろしくお願いいたします。

# 感染防止期間特別企画 『自宅でドイツを楽しもう！』

## 『家庭でドイツ料理を作りましょう』

ウイルス感染を配慮して外食を控え家での食事が続いていることと思います。このコーナーは、「家食」の献立にドイツ料理を取り入れていただきたく設けました。

### 第2回 「グリンピースの煮込み」と「牛肉のロール煮込み」と 「ヘルマン夫人の簡単チーズケーキ」

料理研究家 日下部管子さん

#### 1、グリンピースの煮込み

タイトルを簡単に「グリンピースの煮込み」と付けたのは、メインの食材がグリンピースで、私がマールブルクでホームステイをしていたヘルマン家では、これがメインディッシュでもあり、またスープとしていただいていたので、このように名付けました。ドイツ風に料理名を書くとしたら、「グリンピースとソーセージの煮込み料理」となります。

ヘルマン家では、昼食はスープから始まって、メイン料理、デザートまで、様々なお料理が出たのですが、夜はとても簡単で質素な一品料理が常でした。

このお料理も、よく寒い夜に作って出してくれた一品の一つです。それでも食器は銀のスプーンで頂いていました。銀のフォークやナイフなどのカトラリーにはすべて”Hellman”の名前が刻まれていて、食後一緒に夫人と後片付けをしているときなど、銀器は決して食器と一緒に流しに入れることなどはせず、いつも丁寧に別に洗っていたこと、そして時間ができた昼下がりの午後など、それらを銀磨きで丁寧に磨いていたことを思い出します。

#### 2、牛肉のロール煮込み

このお料理は、ドイツの定番煮込み料理のひとつです。

牛肉は一般には日本の薄切り肉のようなものではなく、脂も「無い」と言った方が良く、赤身で、その分甘味が少ないので、マスタードや様々な調味料、香辛料を使って肉の表面に塗り、中にきゅうりのピクルスや玉ねぎ、時にはベーコンなども入れてロールにし、ことごと煮込んだものです。添え野菜としては、バターで煮たジャガイモやニンジンのグラッセ、紫キャベツのザワークラフトなどが彩りよく添えられていました。

#### 3、ヘルマン夫人の簡単チーズケーキ

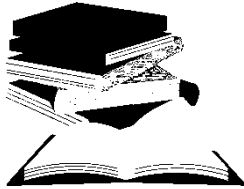
彼女には食べ盛りの4人の子供がいて、台所に行くと必ず手作りのケーキが置かれていました。実はこのレシピの分量は日本人向けに半量にして作っています。

ドイツのケーキ型は日本の倍ほどあり、また家庭で作るケーキの工程はとても簡単で、日本のように丁寧に手間暇かけて作るのを見たことはありませんでした。ただ、とても健康に気遣っている様子で、クリームチーズもヨーグルトを一晩布で漉し、水切りした「クワルク」と呼ばれるものを使っていました。そして、ホエーと呼ばれる漉した後の白い液体は、スープに入れたりしていました。

☆レシピは別紙にて同封しています。

## 『ドイツの魅力、素晴らしさを共有しましょう』

ステイホームでドイツ文学をはじめドイツに関する書籍等を読んだり、ドイツ関係の映像を見たりしての紹介・感想などなどをお寄せください。「ドイツの魅力」を共有しましょう。



### 「革命前夜」を読んで

会員 清水 裕子

「革命前夜」 著者:須藤しのぶ 文春文庫

私がこの文庫を手にしたのは、帯に書かれた「〇〇書店文庫担当の大オススメ」の文字からでした。

昭和から平成に代わる瞬間に東ドイツのドレスデンにピアノ留学をした日本人が、才能溢れる他国の留学生や政治的背景により世に出る事が出来なかったオルガニストなどを通して、一人の音楽家としての成長を描いた音楽小説であり、歴史小説です。

作中には、東西冷戦時代のドレスデンとライプツィヒの様子が細かく描かれていて、旧東ドイツ時代を知らない私にとって、当時の生活様式はとても興味深いものでした。

また作中にいろいろな楽曲が出て来ますが、その曲の描写や表現も素晴らしくて、タイトルは知っていても聴いた事のない曲ばかりだったので、YouTubeで検索して実際の曲を鑑賞してみて、改めてその表現が正しかったとしみじみ感じました。

ベルリンの壁が崩壊して31年。この本の最後はベルリンの壁の崩壊で終わっています。その頃の私は、テレビで見た壁崩壊の映像も、どこか遠くの知らない世界の出来事でした。その後ドイツと関わりが出来て、旧東ドイツを訪問した事もありますが、急速に発展した街という印象以外ありませんでした。密告や裏切りが当たり前だった日常は想像もつきませんが、そんな日々を実際に過ごされた方々がいるという事を忘れてはいけないと思いました。

### 「オンライン授業を受けて」

会員 吉川 充子(K5クラス受講)

緊急事態宣言後、杉谷先生のドイツ語の授業も対面からオンラインに変わりました。現在は、対面、オンラインの半々で進められています。私なりに感じたメリット、デメリットを述べます。一方のメリットは、他方のデメリットになります。

対面授業メリット：先生やクラスメイトに会える。全員の表情が判る。日独協会の近況が知れる。

対面授業デメリット：自宅からの移動時間、移動費が要。マスク着用のため声を出しづらい。

オンラインメリット：自宅にいながら授業を受けられる。感染の心配がない。

オンラインデメリット：パソコンの最低限の知識が必要。全員の反応が判りにくい。眼精疲労。

私達のクラスの授業(K5)では、ドイツ国内で高い評価を受けた映画で、パリのゲーテ・インスティテ

ユートで教材も開発された“Im Labyrinth des Schweigens”(邦題「顔のないヒトラーたち」)を鑑賞しながら、ドイツ語や当時のドイツ社会の様子、そして現代に続く変化を勉強しました。戦後ドイツの政界・経済界、さらには司法界でも過去については沈黙し経済復興に邁進すべきという風潮が支配的だった時代、孤立し苦勞しながらも若い世代を軸にアウシュビッツ裁判の開廷に漕ぎつけたヘッセン州検察長官フリッツ・バウアー-Fritz Bauer が中心の映画です。オンラインの授業では、映画を自分のPCの全画面で、時に繰り返し見られたのはメリットと言えるかもしれません。関連するテーマで、授業で聞いた衝撃的なニュースがあるので紹介します。

今年の7月23日にハンブルク裁判所は、ナチスの強制収容所の看守だったブルーノ・デイ Bruno Dey 被告(93才)に執行猶予付き禁固2年刑を言い渡しました。ナチスのSS隊員だった彼は、17-18才の頃、ポーランドのグダニスク近郊のシュトウトホーフ強制収容所で監視塔の見張り番をしていました。その時に(直接手を下して殺害に参加したわけではありませんが)、5,230人の殺害に加担したとして有罪判決を受けました。アンネ・マイア・ゲーリング Anne Meier Goering 裁判長は、被告が「人々から人間性を奪い、番号に変えた組織にいたにもかかわらず、現在も自分のことを単なる傍観者だと認識しているようだ。しかし、実際には人為的に作られたこの地獄の共犯者だ」と述べました。

アウシュビッツ裁判は戦後ドイツの歴史を変えた、と言われますが、実際、その後変化してきたドイツ社会は、75年を経てもなお、過去の罪を直視しています。そこから私達日本人は学ぶべきことが沢山あるように思われます。

## 『ドイツ語の広場』

自宅でドイツ語の楽しさを共有するためにこのコーナーを設け、「ドイツ語での言葉遊び」を呼びかけましたが、今月は残念ながらご投稿はありませんでした。

このコーナーでは言葉遊びをはじめ「ドイツ語」を楽しむ皆様の企画もお待ちしています。ぜひお寄せください。

### Deutsche Welle のお勧め

Deutsche Welle(ドイツェ・ヴェレ)は、ドイツ連邦共和国の公共放送連合体が運営している国際放送事業体であり、インターネットでサービス提供を行っています。website では DW-WORLD.DE が、ドイツ、世界、経済、文化、科学と環境、スポーツの項目ごと(現在は Coronavirus が加わっています)に Up-date な記事を日々更新し提供しています。これらの記事によって今のドイツを、世界の今を知ることが出来ます。テーマによっては Audio und Video zum Thema が設けられ、音声や画像によって視聴できます。

文化コーナーでは、Deutschland von A bis Z で毎週ドイツの各都市が紹介されています。ドイツへの旅行がままならないコロナ時代、画像でドイツを体験して見ては。更に、ドイツ総領事館のホームページ「広報・ドイツ語を学ぼう」のサイトからドイツェ・ヴェレ提供の「インタラクティブ・オーディオ・ドイツ語コース」を利用することが出来ます。一度チャレンジしてみませんか。

## 会員の広場

ウイルス感染防止のために協会の行事・催しが出来ないために、会員相互の交流の機会を持つことが出来ずにいます。このコーナーは、会報を通して交流していただくための「広場」です。ご投稿をお待ちしています。

(投稿規定：MSPゴシック12ポ、A41枚程度まで、添付にて毎月第二月曜まで事務局へ)

### 企業視点で見たドイツ社会の良さ

会員 藤澤 史朗

小生2009年に当協会に入会しましたが、2013年以降私事都合でしばらく欠席させて頂きました。昨年舞い戻ってきましたので、またおつきあいのほどよろしく願いできれば幸いです。

私の勤務する会社は2004年にドイツの大手IT会社(SAP社:ヴァルドルフ)のシステムパッケージを担いで事業を起こした関係があり、創業時から私自身もドイツにかなり関心を持っていました。また2012年に北ドイツ旅行に参加して以降、ドイツ社会の物事の考え方や文化の違いにも大変興味を持ち、仕事や生活面においてドイツ式の発想をよく取り入れる機会にも繋がって大変感謝しています。ドイツ交流はかなり浅い自身ですが仕事の関係で色々とドイツとの関連事項を調べたりした事もあり、私なりに感じているドイツ社会の良さを案内させていただければと思います。

またドイツに関しては極めて詳しい会員の方々が揃っていますので既知な内容ばかりであろうと推察されます。寛大な心で読み飛ばしていただければ幸いです。

年齢が知れますが小生の子供時代はまだケネディ、フルシチョフ、アデナウアー、ドゴールなども生存していた頃であり、ラジオやテレビなどでその人たちの動向がニュースで流れていました。もちろんアデナウアー、ドゴールなどは世代交代して前線から退いていた時期だったと思います。しかし当時も国家間の政治調整の難しさは同様であり、米ソの核実験や宇宙競争およびベトナム戦争の勃発、フランスの核開発やインドシナ戦争、中東紛争など次々と事件が起きていたように思います。またドイツとフランスは二度の対戦とも敵国関係でしたが、子供心にも『隣同士で何故仲良くしないのか』と不思議に感じていた程でした。

当時のヨーロッパに視点を向けるとフランスが核保有をしたとかで優位な立場を確保した時期でした。また総じて20世紀の欧州は『没落の時代』と言われた時期だったように思います。しかし水面下では1951年の石炭共同体を起点として徐々に独仏連携が進み、最終的にEU体制まで漕ぎつけたのはまさに世紀の大イベントをなし遂げたのであろうと感じます。悲しいかな、今はテロの脅威やコロナ感染の拡大等により、国家間の断絶状態が生まれつつあり、本当に残念であります。しかしEU自体は壮大なる構想の元に生まれ、平和と繁栄を目指す大事業でもあり、再度、欧州各国が修復の方向性を見つけてその立て直しに繋げて欲しいものだと強く願う次第です。

前置きが長くなりましたが企業サイドにいる小生から見えるドイツ社会の感想を述べてみます。まず交通面ですが欧州は大半の国において鉄道が同じ軌道幅を採用しているため、国家間の了解が得られれば、即鉄道の乗り入れが可能な状態となっています。ヒトラーが鉄道を利用して国境を

越えて遠征して戦争の指揮をとった話は有名だと思います。そして今は独仏の両鉄道が相互乗り入れを行い、交通の利便性が多いに向上したと評価されています。相互乗り入れについては当初、フランスがかなり反対したと聞きますがドイツの圧力が勝って実現したようです。なお発端は航空機業界への対抗であり、鉄道の競争力向上がどうしても必要であった模様です。この相互乗り入れはお互いの連携による経済効果がまず大きく発揮された出来事であったと思います。

またドイツの鉄道において“改札が無い”というのは訪問する者にとっては極めて衝撃的であり、また逆にドイツらしいようにも感じられます。日本の鉄道において鉄道収入を大きく支えているのは通勤・通学の定期収入だそうです。日本人から見れば鉄道の改札が無ければ無銭乗車のチェックができず、大変な赤字になるのは間違いとの事。これについては、ドイツは車内の検札や、無銭発見時の莫大な追徴が前提となっていて、強い法律規制を敷くことで法律遵守を促す管理を目指しているように思えます。法治国家の理想に感じられる取り組みですが現実には無銭乗車が多発するのは避けられないのではないかと感じる次第です。ただドイツの鉄道は実質的には国家資本が支えていますので収益の視点でなく、近距離は実質無料の交通手段として社会的なインフラ機能を持っているようにも思えます。あくまで当方の偏見ですのであしからず。

また鉄道の車両管理と線路管理が別系統にて分離した会社で管理運営されているのもドイツ的だと感じます。必要な資源を必要な体制で賄い、コストを最小限に抑制する方法で運営する姿勢は誠にドイツ的です。現在、日本も電力業界などが分離方式を目指して法改正が進み、分離したサービスが始まりつつあります。またドイツの連結バスの積極的な導入や、船舶工事で大胆に船舶を切断し、そして接合して建造する手法など何か組み合わせパズルをしているような感覚がドイツ経営にはあるように感じます。

また応用研究におけるミュンヘンの『フラウンホーファ研究所』の存在も論理思考を多分に感じます。同研究所は、設立当初は戦争の研究を目指していたと聞いていますが戦後はビジネス利用に転換し、各業界における応用研究の総括した組織体として産学間連携や、若手研究者の登用、大規模なコスト削減等で国家単位で極めて大きな成果をドイツにもたらしています。米国や日本などでは企業内に研究部門をそれぞれ設けて、研究の初歩段階から最終段階まで一貫して社内で行き届く方法であり、結果として業界全体として多大な研究工数(費用)を発生させています。ところがフラウンホーファは共通的な前工程を国家の単位で集約して取り組む事により重複研究を無くし企業間競争となる最終工程で各企業に再度、引き渡すという研究工程の分担が図られています。それにより全体視点で物事を考え、最も効率の良い方法を選択する対応が国家の単位で可能となっています。何事も大局視点で捉えて、論理思考で問題解決を図り、かつ実践する姿勢は日本として学ぶ点が極めて多いように感じます。

ところでフラウンホーファのあるチームが大阪のホテルで大学、病院、大手製薬企業の交流会を持ったことがあります。小生も参加したのですがこの交流会で感じた点は効率面とは違って仕事とプライベートの切り分けが極めて明快である事でした。当日、出席していたのはドイツ全体の病院

システムを設計および統括する30代の若手リーダーでした。交流会を終えた後、その方は4日後に東京のイベントを予定していたのですが東京に直接向かわず、一旦、ドイツの自宅へ家族の顔を見るために戻る予定と言うのを聞いて我が耳を疑いました。そして『時間が無いから半日居たらすぐトンボ帰りするよ。』と苦笑いしながら話をする姿に再度驚いた次第です。いかにもプライベートを重視するドイツ人らしさを感じた出来事でした。日独を比較した場合、どちらも良い面を多く持っていると思いますがドイツ社会の良さは常に大局視点で問題を捉えて、論理的に考え、またプライベートも大切に作るバランス良い姿勢にあると感じます。私たちは、ややもすると日々の多忙な仕事や人とのつきあいに追われ、自分を見失うことも多くあり、目に見えない力に流されやすい生活を送っているように感じています。そのため今回のコロナ禍などはドイツ社会の取り組みを参考として仕事のやり方を再度しっかりと見直し、また家庭生活のバランスも合わせて考え直す良い機会でないかと思えるのです。

## 9月の実行委員会のお知らせ

9月の実行委員会を下記のとおり開催します。実行委員以外の方にも是非ともご参加の上ご意見をいただきたくお願いいたします。

日 時： 9月20日(日)15時～

場 所： 神戸日独協会会議室

## 「神戸日独協会設立80周年記念誌」編集委員会について

会長 柘田 義一

神戸日独協会は本年に設立80周年を迎えました。これまで協会では50周年(1990年)、60周年(2000年)、70周年(2010年)に記念事業として、記念式典・祝賀会、コンサート、記念誌発行、特別講演会等の関連行事を行ってきました。そこで昨年の総会にて「神戸日独協会設立80周年記念事業」の企画・準備のために、「神戸日独協会設立80周年記念事業実行委員会」を立ち上げることが承認されました。昨年6月発行の「会報342号」の記事『「神戸日独協会設立80周年記念事業実行委員会」について』にて会長より同委員会立ち上げへのご協力を依頼いたしました。

昨年の総会以降「実行委員会」(上記委員会ではなく毎月定例の委員会)にて記念事業について検討を重ねてきました。しかし新型コロナウイルス感染拡大防止のために記念式典・祝賀会、特別講演会、コンサート等の関連行事の開催は現状では困難であり、具体的な記念事業の企画・準備が出来ない状態が続いています。

「記念誌」の発行については、オンライン会議等の活用によって企画・準備が可能ですので、「編集委員会」を立ち上げて編集内容について協議をしたいと思います。「記念誌」発行についてご提案、ご協力をいただける方は、是非とも「編集委員」としてご参加していただきたくお願い申し上げます。編集委員としてご協力いただける方は、協会事務室までご連絡ください。

# ドイツ語談話室

## 第198回ドイツ語談話室

日時：2020年8月15日(土) 14-16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：コロナ後の経済危機

今回の司会は井川信子さんが担当され、コロナウイルス感染問題がもたらした我々の生活への影響について、ネガティブな面とポジティブな面のあることを述べられた。マイナス面としては、売り上げの減少、収入の減少、失業の増大、それに学校教育の停滞などがあり、プラスの面としては、テレワークにより家庭での時間が増え家族のきずなが強くなった事、通勤地獄から解放された事、残業からも解放された事、さらに将来的に郊外に住める人々が増えるだろうとの事、などがある。次に参加者の皆さんからコロナの影響について意見が出た。その一部を下記紹介する。

—コロナ感染問題でブームが起きた業界もある。マスクのメーカーや薬局、食品会社やスーパーマーケット、またオンラインショッピングもブームが起こった業界である。

—ホームオフィスやテレワークが世界中で進められているが、日本ではこのような形態は難しいのではないか。日本人は個人的な対面でのつながりを重視するから。

—日本では、民間企業のテレワークは進んでいるが、公共部門では難しいようだ。一般に公共部門での仕事の能率は低い。

—旅行業界や飲食業界でのコロナ感染問題による打撃は大きく、既に多くの倒産業者がでてくる。

—コロナ感染問題でも、政治家たちのウソでたらめは世界中に広がっており、一つのウソを繕うため、次々とうその上塗りを重ねている。

—コロナ感染問題の長期化の現状を見ると、来年日本でのオリンピック開催はまづ難しい。

—こうした騒動を見ていると、ある言葉を思い起こす。つまり、より長く生きるのではなく、よりよく生きることを心掛けたい。

—コロナ感染問題による経済危機で心配するのは、世界中で貧富の格差が今よりずっとひどくなってしまうことだ。

### 今後のドイツ語談話室の予定

第199回 2020年 9月19日(土) 14-16時 テーマ：私の楽しみ

第200回 2020年10月17日(土) 14-16時 テーマ：コロナ禍での生活様式

## Deutsche Gesprächstunde

### Protokoll der 198. Deutschen Gesprächstunde



Zeit: Samstag 15. August 2020, 14 bis 16 Uhr

Thema: Die Wirtschaftskrise nach Corona

Dieses Mal hatte Frau Nobuko Ikawa die Gesprächsleitung und sprach von den negativen und auch positiven Seiten des Corona-Virus-Problems in unserem Leben.

Umsatzrückgänge, weniger Einkommen, Arbeitslosigkeit und Probleme bei der Fortführung von Schulbildung sind die hauptsächlich negativen Seiten. Positive Auswirkungen kann es für Familien geben, da man durch Telearbeit mehr Zeit zu Hause verbringt, viele können den dichtesten Verkehr vermeiden, manche auch Überstunden. In Zukunft werden dank der Telearbeit wahrscheinlich mehr Leute in den Vorstädten leben können.

Die Teilnehmerinnen und Teilnehmer diskutierten über das Thema. Hier einige Beispiele der Wortmeldungen:

- Ein Teilnehmer sprach von den Wirtschaftszweigen, die Vorteile aus der Krise ziehen z.B., die Hersteller der Masken, der Medikamentenhandel, bestimmte Lebensmittelhersteller, Supermärkte und Online-Dienste.
- Ein Teilnehmer merkte an, dass weltweit Homearbeit und Telearbeit eingeführt wurden, dass er sich für Japan dabei aber weniger Erfolg verspricht, da in Japan direkten persönlichen Kontakten ein hoher Stellenwert zugeschrieben wird.
- Ein Teilnehmer interpretiert, dass in Japan in privaten Unternehmen Telearbeit gut zu funktionieren scheint, nicht aber in öffentlichen. Im Allgemeinen ist die Leistung in öffentlichen Unternehmen nun sehr niedrig, denkt er.
- Eine Teilnehmerin sprach davon, dass bereits viele Reiseunternehmer und Restaurants Bankrott gegangen sind.
- Eine Teilnehmerin unterstellt den Politikern weltweit Lügen und, dass diese immer schlimmer werden, weil mit neuen Lügen ältere verdeckt werden.
- Ein Teilnehmer denkt, dass es unter den gegenwärtigen Zuständen unmöglich sein wird, die olympischen Spiele in Tokyo durchzuführen.
- Eine Teilnehmerin denkt unter den jetzigen Umständen des Öfteren an den Spruch „nicht mehr Tage zu leben, sondern in den Tagen mehr zu leben“.
- Ein Teilnehmer hat große Angst, dass wegen der Wirtschaftskrise der Unterschied zwischen Arm und Reich noch weiter auseinanderklafft.

#### **Nächste Treffen:**

Samstag 19. September, 14 bis 16 Uhr, Thema: Meine Freuden

Samstag 17. Oktober, 14 bis 16 Uhr, Thema: Wie verbringe ich meine Zeit während der Corona Krise

# ドイツ新事情 —Deutsche Welle の記事から—

## ドイツのコロナデモ

柘田 義一

8月29日首都のベルリン市内各所で、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として導入されたマスク着用などの行動制限に対する抗議を示すデモが開催された。これらのデモに対してベルリン州政府の内務大臣をはじめ市当局はデモに先立ち、これまでデモにおいて参加者らがマスクの着用(Maskenpflicht)と社会的距離の保持(Abstandsregel)を守らず感染対策の規制に反しているため「十分な感染防止対策が取られない可能性が高い」として、さらに新規感染者数が再び増加傾向にあることをも踏まえて、いったんは29日のデモの中止を求める方針を示した。しかしその後のデモ主催者による提訴に対して、直前になって行政裁判所(Verwaltungsgericht)は市の決定を覆し、主催者が参加者同士の社会的距離を保つなどの条件を守れば、実施できるとの判断を下したため、デモは実施された。参加者約3万8000人のほとんどが、マスクを着けず、互いに距離を置かず、プラカードを掲げて行進し、個人の自由を侵害するマスク着用義務などへの反対を訴えた。

ドイツでは徐々に制限が緩和され出した5月初めから各地で新型コロナ対策の各種制限に抗議する通称「コロナデモ(Corona-Demo)」が急増している。例えば5月9日にはニュルンベルクでは当初50人(当時集会が認められていた最大人数)の「平和的集会」の届け出があったが、蓋を開けてみると2,000人にまで膨れ上がり、ミュンヘンでは3,000人が、ベルリンでは国会議事堂前に1,200人が押し寄せた。いずれも、マスク着用や社会的距離確保を無視する参加者が多く、さらに警察に対する暴行などで多数の逮捕者が出た。こうしたデモの参加者は単純に規制反対の人々だけではないようで、左派やリベラルもいるものの、極右・新右派などが本来平和的である集会を煽っているようである。さらに陰謀論者(Verschwörungstheoretiker)と反ワクチン主義者(Impfgegner)、そして帝国市民(Reichsbürger)が注目されている。特に陰謀論者は、新型コロナウイルスが次世代通信規格「5G」に関連していると言ったり、ビル・ゲイツ Bill Gates と関連付けたり、メディアが流すのはすべて「フェイクニュース(Lügenpresse)」であるとして、そのためにジャーナリストたちへの攻撃も増えている。昨年来アメリカで社会問題化しているワクチンの有効性を信じない、あるいは人体に有害であるとする反ワクチン主義者について、ワクチン接種義務付けのないドイツは連邦健康教育センター(BZgA)によると20%がワクチンに懐疑的だという。だがおそらく新型コロナのせいだろうか、ドイツ人はワクチンに対して以前より好意的であると BZgA は指摘している。各種規制が緩和されたとはいえ、マスク着用や社会的距離確保の義務など、まだまだ続く規制に対する一般市民の不満や不安を政府は理解し、デモをする権利は重要だと考えている。8月29日のデモ申請に対してベルリンのアンドレアス・ガイゼル Andreas Geisel 内相は「集会の自由という基本権に反対する決定ではなく、感染防止のための決定であり、生活が傷つけられない基本権を十分に考慮してのデモ中止勧告である」と述べた。だが、デモに便乗して政治利用する過激派集団、とくに極右勢力に対し議員たちも警戒を強めている。これらの抗議デモに対して、「この2か

月、さまざまな制限を受け入れることにより得たものを無駄にしないよう、そして、再びロックダウン状態に戻らなくて済むように」と、メルケル首相はルールの遵守、他者への尊重を呼びかけた。8月1日にはベルリンで「パンデミックの終焉 — 自由の日 Das Ende der Pandemie — Tag der Freiheit」と名付けられた大規模なデモが実施された。このデモにはワクチン反対論者、陰謀論者極右から極左団体などを含む約1万7000人が参加。デモはウンターデンリンデン通から始まり、デモ参加者は「自由の日 Tag der Freiheit」の旗を掲げ、「マスクを外そう、あなたたちの心底は御見通しさ Maske weg! Ihr seid durchschaut.」と書かれたプラカードなどを手に、「私たちが第二波だ」と叫びながら行進した。ドイツで義務付けられていた人との距離を1.5m以上確保し、それができない場合はマスクを着用するというルールを守っていないとの警告を警察から受けて、主催者がデモを中止した後、参加者らは同市のシンボルであるブランデンブルク門の前に集結し座り込み、「抵抗」を求め、新型コロナウイルスの流行は「最大の陰謀論」だと主張した。地元の Berliner Morgenpost によると、基本的な自由を擁護すると主張するシウトウツガルトからの運動団体「水平思考 711」(Initiative Querdenken 711)がこのデモの主催者の一人であると言う。この団体はシュツツガルトを基盤として、新型コロナウイルス関連の規制についてはドイツ憲法が規定する基本的権利や自由を侵害するもので、解除すべきだと主張している。この大規模デモには各種団体・グループの政治的な思惑が垣間見られるが、終わりの見えないパンデミックの下、今の政府のコロナ対策は根本的に違うのではないかという疑念を持ち苦しい状況に置かれている人たちが、マスクを拒否し、三密を気にせずに皆で手を繋いでのデモでもあったのであろう。

最近ドイツの新規感染者数は、1日1,200人前後と、4月下旬並みに戻っている(9月4日現在:感染者数248,840、回復者数222,400、死者数9,325)。夏のバカンスをスペインなどで過ごした外国旅行者らがその一因とみられている。感染者の再びの増加を受けて、メルケル首相は8月27日、6月半ば以来となる国内16州の州首相とのテレビ会議を開き、追加策を議論し、28日から新たに厳しい制限措置が導入された。マスクの着用については、他人との距離が十分取れない公共の場(主にバスや電車内など)でマスクを着けていなかった場合、ほぼ全域で、少なくとも50ユーロの罰金が科せられることになった。ドイツではこれまでマスク不着用への対応は各州で異なっていた。感染者数が多いバイエルン州では最大500ユーロの罰金を科す一方、比較的少ないザクセン・アンハルト州では罰金がなかった。今回、同州以外の15州で最低50ユーロの罰金が科せられることになった。コンサートなどの大規模な催しを12月末まで中止することも合意された。

**Deutsche Welle:**Bundesweite Demonstrationen gegen Corona-Auflagen (09.05.2020), Corona-Proteste – ein deutscher Sonderfall? (14.05.2020), Kommentar: Kein Demonstrationsverbot für Corona-Leugner (03.08.2020), Berlin verbietet Corona-Proteste (26.08.2020), Kommentar: Lasst die Corona-Verharmloser demonstrieren (26.08.2020), Eilantrag gegen Corona-Demo-Verbot in Berlin (27.08.2020), Empörung über Ausschreitungen am Reichstag (30.08.2020)などより。

(このコーナーは、神戸日独協会ドイツ語講座講読クラスLN(火曜日)の受講者が授業で読んだ記事の中から興味深い up date なニュースを随時会報にて紹介しています。)

## 事務室からのお知らせ

### 会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の発送は10月8日(木)を予定しています。お手伝いいただける方は事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越しください。

### これからの神戸日独協会の催し

行事及び催し物の開催については、ウイルス感染防止のため日時の確定及び実施が極めて流動的ですので「一覧表」は割愛させていただき、その都度別途「協会ホームページ」でお知らせいたします。「協会ホームページ」でご確認いただくか、あるいは協会事務室へお問い合わせください。